

## 1. 評価結果概要表

作成日平成20年4月4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2970800336
法人名	社会福祉法人 明徳会
事業所名	テンドーヒル御所わかば館 グループホームきつとうど
所在地	奈良県御所市御国通り364-1 (電話) 0745-64-2500
評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内
訪問調査日	平成20年3月24日

【情報提供票より】(20年3月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月15日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	16人 常勤 9人, 非常勤 7人, 常勤換算 14.1人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての 2階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	49,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300円			

## (4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	17名	男性	4名	女性	13名
要介護1	7名	要介護2	5名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84.2歳	最低	73歳	最高	95歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	勝山診療所
---------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、近くに商店街もある市街地の中に新築2階建てで開所されています。ホーム内は、共用空間・居室に十分なスペースが確保されており、利用者も本人のペース・リズムで穏やかに生活されています。また、良質な生活を担保するために、混乱防止や機能維持への配慮がなされる一方、常勤のソーシャルワーカーや看護師資格職員の配置がなされています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営理念のホーム内掲出に改善がみられ、家族への情報提供・連絡に工夫がされました。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービスの自己評価する意義・目的を正しく理解され、全職員の参画の下に問題点や課題の把握・確認の機会とされ取り組まれています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議の設置の趣旨を理解され、幅広いメンバー構成で設置されています。しかし、開催回数が少ないことから、十分機能するところまで至っていない様に感じられます。今後、この組織の活用を期待します。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	運営推進会議での意見・要望等の開陳を求める機会とされると共に、家族の訪問時に職員から積極的に意見を聞きだす取り組みがなされ、集約された意見等を職員会議で検証され、サービスに反映させる事とされています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所の開設2年ですが、ホームも地域社会の一員と強く認識され、地域の社会活動への参加やホーム機能の地域還元として認知症予防教室の開催、また、近隣の小学校と定期的な交流機会の確保等による地域との繋がりを大切に運営されています。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の意思・尊厳を尊重し、地域との結びつきを重視した運営理念が作られています。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、会議等で運営理念を実践に活かすよう、常に話されている他、理念を誰もが見やすい場所に掲出され、その共有化に努められています。		
2. 地域との支えあい					
	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所も地域社会の一員と強く認識され、自治会への加入はもとより、清掃等社会活動への参加や自主事業として、地域の高齢者を対象に認知症予防の教室を開かれ地域との結びつきを大切に運営されています。また、近隣の小学校と定期的な交流会が持たれています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義・目的を正しく理解され、評価結果は職員に検証・伝達され改善に活かす取り組みがされています。なお、自己評価に当たっても、全職員が参画され課題や問題点を把握・確認する機会と捉えられています。		
	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、行政職員や地元代表・家族代表・有識者等幅広いメンバーに委嘱されています。会議では、サービスの質の向上や運営上の課題解決への意見や提言を頂く機会とされています。		運営推進会議の開催回数も少ないことから、会議設置の目的を果たすところまで至っていないように感じます。今後の運営推進会議が活かされる取り組みを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型サービスに位置づけされたことから、行政との連携は不可欠との考えで、情報の交換や運営上の相談に訪問される機会を多く持たれています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行されている「ホームだより」に一人ひとりの暮らしの様子を手書きされ写真を添付の上報告されると共に、健康状態に変化等が見られる時には随時報告・相談する事とされています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見・要望等を聞く機会とされているほか、家族の訪問時に、職員側から積極的に話し掛け、さまざまな意見等を聞きだしサービスに反映させる取り組みがなされています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の安定した生活の確保は、職員との馴染みの関係を作ることが大きい要因であるとの考えから、職員異動等には、ダメージを最小限に止めるよう配慮する事とされています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の確保・向上と育成は極めて大切と認識され、新入職員研修の計画的な実施と専門的知識の習得への勉強会の開催や外部研修の機会確保が図られています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム開設以来、認知症介護実践研修への参加等により、同業者との繋がりや情報交換の機会を確保され、サービスの質の向上に活かす取り組みがなされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用は、本人が納得される事が基本であることから、家族と一緒に事業所見学から始め、馴染める環境を家族と相談し安定した移行に努められています。なお、ケースによっては、在宅で利用されていた家政婦の協力も得ながら安心した生活の確保が図られています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用時に得た情報から、共に出来ること・本人の出来る範囲等を見定め、介護される立場に置かない支援がなされています。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用時に詳細な情報を収集し、生活の中に活かす取り組みがなされています。また、利用後の様子も踏まえ、さまざまな生活の場面で一人ひとりの意向が実現出来る様に支援されています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人の課題やケアのあり方について作成するものであることから、センター方式も取り入れ、関係者が十分意見交換し、調整されています。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の職員会議等で、一人ひとりの身体的状況や記録データを基に随時見直しされる仕組みがあります。		身体的変化に応じた見直しはなされていますが、生活面での本人や家族の希望・意向を反映させることを検討されていますので、実現を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況を勘案され、買い物・散髪・通院等の支援を柔軟に対応されています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医での受診を基本とされており、本人や家族の意向に沿って医療機関を決めることとされています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期への対応についての明確な方針が確立されており、家族に対して説明されています。		定例の会議等で、終末期への対応方針を職員に説明され、その共有化に努められていますが、看取りの経験がないこともあり、職員の不安を払拭するまでには至っていないと感じられますので、常に研鑽に努められる事を期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「尊厳ある自立した生活支援」が運営方針の一つの柱であることから、言動に留意し全てに声をかけて行動するよう心がけられています。また、事業所独自の個人情報保護に関する規定があり、これにより適切に対応されています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の生活の流れは設定されていますが、本人の生活のリズムを大切にされ支援されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	オープンな調理場は食に対する関心を喚起し、利用者も下・配膳や調理・味付けに参加する等食事を楽しむ雰囲気作りに取り組まれています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や入浴時間帯に設定はなされていますが、希望者には、毎日の入浴や夜間入浴にも弾力的に支援されています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	画一的な設定は無く、本人の趣味や特技が生かせる場面や動機付けに工夫した支援がなされています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出により受ける刺激の効果を理解され、買い物や周辺の散歩を日常的に取り入れられている他、定期的に近隣の小学校や幼稚園の行事等に参加する等外出機会の確保がなされています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は、安全確保の為に施錠されますが、日中は、しっかりした見守りがなされ、玄関は常に開錠されています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に地元消防署の指導を受け、消火訓練や非難訓練が実施されています。また、緊急時に備えて通報装置が設置されています。		火災発生時には、利用者を安全・迅速に屋外に誘導することが求められることから、ホームに対する周辺住民の理解・協力が拡がりつつありますので、火災発生時の応援・協力体制の構築と地震の被害を想定して、最小必要物品の備蓄のあり方を検討されることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の日誌に食事の摂取量を記録されています。また、本人の状態や好みを把握され調理方法に工夫されています。なお、水分補給についても常に配慮されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃の行き届いた広いリビングがあり、採光への配慮がなされているほか、洗面や食卓に花が生けられ穏やかに過ごせる空間が確保されています。また、利用者の作品等がさりげなく飾られほのぼのとした雰囲気が感じられます。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた調度品や好みの品物が持ち込まれ、安心して暮らせる居室となっています。		